

計画 17 練馬城址公園をにぎわいの拠点に

< 5 年後の目標 >

東京都が事業化する練馬城址公園の整備に、区が求める機能を反映

5 か 年 の 取 組

1 練馬城址公園に整備されることが望ましい機能の検討

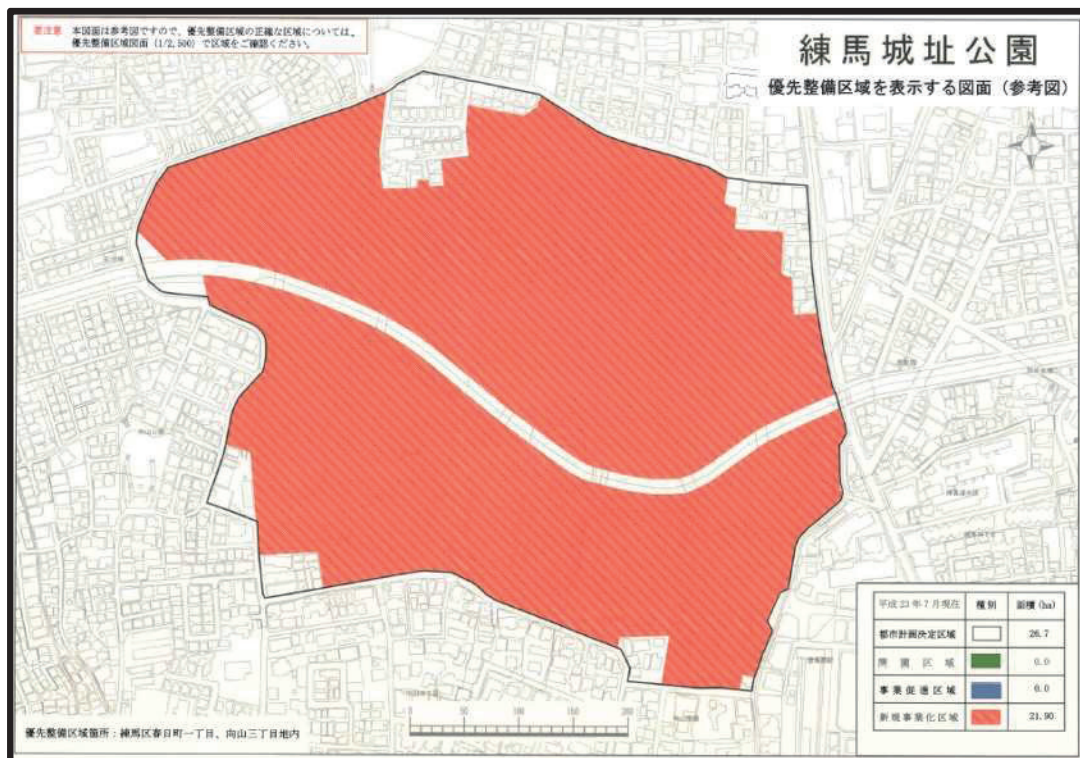
つぎの4点を基本に、区民の意見を踏まえて検討します。

- (1) 災害時に避難場所や活動拠点等として機能する「防災の拠点」
- (2) 練馬区の新たなみどりの象徴となる「水とみどりのネットワークの拠点」
- (3) 多くの人を訪れ、楽しいひとときを過ごすことのできる「にぎわいの拠点」
- (4) 都市計画道路補助 133 号線をはじめとする周辺都市基盤の整備

2 東京都への要請

東京都の公園整備の考え方やスケジュールと調整を図りながら、区が求める機能が盛り込まれるよう、東京都に要請していきます。

練馬城址公園「優先整備区域図」(東京都都市整備局ホームページより)





平成 26 年 10 月に「としまえん」で開催された「練馬まつり」



平成 25 年度「成人の日のつどい」

- ① 「としまえん」は都内有数の遊園地として、長年にわたって区内外の方々から親しまれ、その知名度は高く、「練馬区のシンボル」と言える貴重な財産です。成人の日のつどいなど区の行事の会場にもなっており、平成 26 年度には「練馬まつり」が行われ、多くの来場者でにぎわいました。昭和 32 年 12 月に都市計画公園として決定された「練馬城址公園」の区域内にありますが、50 年以上にわたり公園事業化の動きはありませんでした。
- ② 区では平成 21 年度、練馬区の特徴を活かす「みどり」「農」「アニメ」など 5 つの「ねりま未来プロジェクト」を設定し、これらのプロジェクトを総合的、効果的に進める先導的なモデル事業として「新たな練馬ブランドの発信拠点」づくりをめざす「ねりま未来プロジェクト推進構想」の検討を開始しました。「としまえん」は知名度が高く立地条件も良いことから、モデル事業における拠点の一つと位置づけ、区では平成 22 年度に、「新たな練馬ブランドの発信拠点」づくりに向けて、主たる土地所有者に働きかけ、官民協働による取組の検討を進めてきました。
- ③ 平成 23 年 12 月に、「都市計画公園・緑地の整備方針（改定）」において東京都は、避難場所として指定されている「としまえん」を含む練馬城址公園を事業化する意向を明らかにしました。東京都は新たな事業化にあたり、東日本大震災を踏まえ「首都東京の防災機能の強化（避難場所等となる公園・緑地の整備促進）」と、「水とみどりのネットワークの形成」をポイントとしています。そして、都市計画公園「練馬城址公園」として都市計画決定されている区域 26.7ha のうち 21.9ha を平成 32 年度までに事業化（都市計画公園としての事業認可取得）を図る「優先整備区域」として設定しました。
- 東京都による練馬城址公園の事業化という状況の変化により、区が主体的に取り組みを進めることが困難になり、東京都の方針を前提とした再検討を行う必要が生じています。
- ④ 「としまえん」の周辺は住宅密集地であり、幅員 4m 以下の道路や袋小路が多くあります。東側に接する豊島園通り（幅員 11m 程度）以外に幅員 8m 以上の道路はなく、避難や消防活動、延焼防止等の面で課題を抱えています。
- また、遊園地「としまえん」のにぎわいが失われた場合、豊島園駅の乗降客数（西武豊島線 13,318 人／日、地下鉄大江戸線 10,954 人／日（24 年度平均））が減少し、特に西武豊島線に影響を及ぼすことが懸念されます。